

社会主義的インテリゲンツィアの使命

社会主義的インテリゲンツィアは、幻想と絶縁して、ロシアののぞましい発展のうちではなく、現実の発展のうち、また、可能な社会・経済関係のうちではなく、現実の社会・経済関係のうち、その支柱をもとめるようになるときにはじめて、実りの多い活動を期待することができる。このばあい彼らの理論的活動は、ロシアにおける経済的敵対のあらゆる形態の具体的研究、それらの形態の関連と継起的発展との研究を目標としなければならないであろう。それは、政治史や、法制度の特殊性や、既成の理論的先入見によってこの敵対が隠蔽されているいたるところで、これを暴露しなければならない。それは、生産関係の一定の制度としてのわが国の現実についての完璧な絵図をえがき、この制度のもとでは勤労者の搾取と収奪が不可避であることをしめし、経済的發展が指示する、この制度からの出路をしめさなければならない。

ロシアの歴史と現実についての細目にわたる詳細な研究に立脚するこの理論は、プロレタリアートの要請にこたえなければならない。——そして、もしこの理論が科学の要求をみたすならば、プロレタリアートの抗議思想のあらゆる目ざめは、不可避免的にこの思想を社会民主主義の水路にみちびきいれるであろう。この理論の作りあげがすすめばすすむほど、社会民主主義はいっそうすみやかに成長するであろう。なぜなら、現代の制度のもっとも悪がしこい守護者にでも、プロレタリアートの思想の目ざめを妨げる力はないからである。彼らにその力がないというのは、この制度そのものが、必然的に、また不可避免的に生産者のますます激しい収奪、プロレタリアートおよびその予備軍のますますおびただしい増大をひきおこしており、しかもこれが、社会的富の増進、生産力の巨大な成長、資本主義による労働の社会化と、あいならんでおこなわれているからである。こういう理論をつくりあげるのにまだどれほど多くの仕事がかかっているにしても、社会主義者がこの仕事をはたすであろうことの保障は、唯一の科学的方法である唯物論——それは、あらゆる綱領は現実の過程を正確に定式化したものでなければならない、と要求する——が彼らのあいだに普及していることによってあたえられており、また、これらの思想を受けいれている社会民主党の成功によってあたえられている。この成功は、わが国の自由主義者と民主主義者の心をひどくかきみだしたために、あるマルクス主義者の批評によると、彼らの部厚い雑誌が退屈でなくなったほどである。

私が、社会民主主義者の理論的活動の必要性和重要性と巨大さを、このように強調するとしても、私はそのことによって、この活動が**実践的**活動に優先すべきだ、と言おうとしているのではまったくない。(反対に、つぎの理由によって、つねに宣伝および煽動の実践的活動がかならず優先するのである。第一に、理論的活動は、実践的活動が提出する要請にこたえるだけである。第二に、社会民主主義者は、自分では左右しえない事情によって、もっぱら理論的活動だけにとどまらなければならないことが、きわめてしばしばおこるので、実践的活動をおこないうる瞬間の一つ一つを高く評価しないわけにはいかないのである。)ましてや、理論的活動が完了するまで実践的活動を延ばすべきだ、などと言おうとしているのではない。そういう結論をひきださうるのは、「社会学における主観的方法」の崇拜者たち、すなわち、空想的社会主義の追随者たちだけである。もちろん、も

し社会主義者の任務が、その国の「発展の別個の（現実の道以外の）道」をさがしもとめることにあると仮定すれば、天才的哲学者が、そういう「別個の道」を発見してしめすときにだけ、実践的活動がおこないうるようになるのは、当然である。また逆に、そういう道が発見されて、しめされるときに、理論的活動はそこにおわって、「新しく発見された」「別個の道」にそい、「祖国」をみちびくべき人々の活動がはじまるわけである。社会主義者の任務が、現存の社会経済的發展の**現実**の道のうえにいる現実の真の敵にたいする、プロレタリアートの現実の闘争において、彼らの思想的指導者となることに帰着するとすれば、事情はまったく異なったものとなる。そのばあいには、理論的活動と実践的活動は融合して一つの活動となる。ドイツ社会民主党の古つわものリープクネヒトは、つぎの言葉によってきわめて適切にこの活動を特徴づけた。

Studieren, Propagandieren, Organisieren. [研究し、宣伝し、組織する]

前述したような理論的活動をおこなうことなしには、思想的指導者となることはできない。それと同様に、この活動を事業の要請に応じてみちびくことなしにも、また、この理論の成果を労働者のあいだで宣伝し、彼らの組織化を援助することなしにも、思想的指導者となることはできない。

任務をこのよりに提起するならば、社会主義者のグループにきわめてしばしば見られる欠陥——教条主義と宗派主義とに社会民主主義者が陥ることはふせがれる。

学説が社会経済的發展の現実の過程に合致するかどうか、その学説にたいする最高の、そして唯一の基準となっているところに、教条主義はおこりえない。任務がプロレタリアートの組織化をたすけることに帰着するとき、したがって、「インテリゲンツィア」の役割が、特殊の、インテリゲンツィア出身の指導者を不用にすることに帰着するとき、宗派主義はおこりえない。

だから、マルクス主義者のあいだには種々の理論上の問題にかんして意見の相違があるにもかかわらず、彼らの政治活動の方法は、マルクス主義者のグループが発生した当初いらいかわらなかつたし、そして現在までかわっていない。

社会民主主義者の政治活動は、ロシアにおける労働運動の発展と組織化をたすけ、この運動を、指導的思想をもたない、ばらばらの抗議、「一揆」、ストライキの試みにすぎない現状から脱却させてブルジョア制度に反対し、収奪者の収奪をめざし、勤労者の抑圧に基礎をおく社会制度の廃絶をめざす、ロシアの労働者**階級全体**の、組織的闘争にそれを転化するのをたすけることにある。この活動の基礎となるものは、ロシアの労働者は全ロシアの勤労被搾取住民の唯一の自然的な代表者であるという、マルクス主義者の共通の確信である。（ロシアの未来をになう人は百姓である、と農民社会主義の代表者たち、もっとも広い意味でのナロードニキは、考えた。ロシアの未来をになう人は労働者である、と社会民主主義者は考える。ある手稿に、マルクス主義者の見地がこのように定式化されていた。）

自然的な代表者であるというのは、農奴制経済の死滅しつつある残存物をべつとして考えれば、ロシアにおける勤労者の搾取は、どこでもその本質上資本主義的なものであるからである。……………

労働者は、自分を抑圧しているものが資本であること、ブルジョアジーの階級にたいして闘争しなければならないことを、もはや見ないわけにいかない。そして、当面の経済的必

要の充足のため、自己の物質的状態の改善のための労働者のこの闘争は、不可避免的に労働者に組織を必要とし、また、不可避免的に、個人にたいする戦いではなくて、階級にたいする、すなわち、ひとり工場内だけでなく、いたるところ、あらゆるところで勤労者を抑圧し、圧迫しているその階級にたいする戦いになっていく。これこそ、工場労働者がまさしく全被搾取住民の先進的の代表者にほかならない理由である。そして、工場労働者がその代表者としての責務を、組織的な持久的な闘争を通じて実現するためには、なんらかの「見通し」によって彼らを熱中させる必要は、まったくない。そのために必要なのは、ただ**工場労働者にむかって、彼ら自身の地位をあきらかにし、**彼らを抑圧している制度の政治経済的構造をあきらかにし、この制度のもとでは階級敵対が必然的、また不可避免的であることを、あきらかにすることだけである。資本主義的關係の一般的制度のなかでの工場労働者のこのような地位は、彼らを、労働者階級の解放のための唯一の戦士にする。なぜなら、資本主義的發展の最高の段階である大規模機械制工業だけが、このような闘争のために必要な物質的条件と社会的勢力をつくりだすからである。それ以外のあらゆるところ、資本主義的發展のより低い形態のもとでは、こういう物質的条件は存在しない。……

分散した、個別的な、小規模な搾取は、勤労者をその居場所にしばりつけ、彼らをたがいに分離させ、彼らが自分たちの階級的連帯性を把握することを不可能にし、自分たちの抑圧の原因があれこれの個人にはなく、全体としての経済制度にあることを理解して団結することを不可能にする。これに反して大規模資本主義は、不可避免的に、古い社会や特定の場所や特定の搾取者との、労働者のいっさいの結びつきを断ちきり、彼らを団結させ、彼らにものを考えさせ、組織的闘争を開始できるような条件のもとに彼らをおく。社会民主主義者は、この労働者階級にたいしてこそ、その全注意と全活動とを集中する。労働者階級の先進的の代表者たちが科学的社会主義の諸思想、ロシアの労働者の歴史的役割についての思想をわがものにするとき、また、これらの思想がひろく普及して、労働者のあいだに、現在のばらばらな労働者の経済闘争を意識的な階級闘争に転化する恒久的な諸組織がつくりだされるとき、——そのとき、ロシアの労働者は、いっさいの民主主義的分子の先頭に立ちあがって、絶対主義をうちたおし、**ロシアのプロレタリアートを（万国のプロレタリアートと手をたずさえて）公然たる政治闘争のまっすぐな道にそい、勝利的な**

共産主義革命

へみちびくであらう。

おわり

一八九四年

第一巻 「人民の友」とはなにか P314~318

コメント

社会主義的インテリゲンツィアの使命は、支配階級のイデオロギーによって隠蔽されている敵対を暴露し、わが国の現実（階級対立の現実、階級対立の結果についての）についての完璧な絵図を描き、実践活動が可能なきときには、その理論的な活動の成果を宣伝・煽動するという実践活動を優先して行わなければならない。

そのことなしに、共産主義革命はなしえない。